

## 2008年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら各学校の学校評価（以下、自己点検・評価）を行うことを決めました。

初等部は昨年4月開校であり、まだ評価を行うには少し早いのではないかと考えましたが、草創期であるが故になおさら客観的な評価を受けながら、さらにより良い教育を行っていかうと考え、共に実施いたしました。

それぞれの学校がアンケートしました共通の項目は、「教育課程・学習指導」「児童・生徒指導」「保健管理」「教育環境整備」です。

初等部独自の項目として、「キリスト教主義教育」「英語国際教育」を加えて、児童・保護者・教員に実施いたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計し、分析したものが自己点検評価結果として関西学院評価推進委員会（2009年3月27日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

初等部では自己点検・評価によって浮き彫りになった課題に真摯に向き合い、教職員でその課題を共有し、具体的に改善を図ってまいります。またその改善を社会に公表することによって学校への信頼を高めていく所存です。

次項以降に2008年度初等部の自己点検・評価結果を項目別にまとめたものを記しました。

2009年3月27日

関西学院初等部  
部長 磯貝曉成

## 【 教育課程・学習指導 】

昨年度、学習指導要領や初等部の教育構想に基づいたシラバスを作成し、開校に備えた。本年度は、そのシラバスにしたがい、計画的に授業実践を積み重ねてきた。シラバスに基づいたわかりやすい魅力的な授業を行うことで、基礎基本的学習内容や発展的学習内容の定着を図ることをめざした。

今回実施したアンケートでは、基礎基本的な学習だけでなく、発展的学習を取り入れながら一つ一つの授業を丁寧に行うことで、学力の定着を図っていることが、保護者から高い評価を得ている。また、魅力的な授業のための教員の工夫を、保護者が高く評価している。その一方で、教員自身はまだ授業改善の余地があると考えている。

今後は、本年度の児童の学びの姿をふまえつつ現行のシラバスを付加修正し、児童の学力をより一層伸ばすことに力点を置く。また、校内授業研修会を活性化し、教員が互いの授業を参観する機会を増やし、教員同士の積極的な「対話」を生み出していきたい。「対話」を通じて、一人ひとりの授業力向上に努めたいと考えている。

## 【 生徒指導 】

生徒指導では、校内指導と校外指導の両立をめざした。校外指導では、ルールを守り、マナー、エチケットを身につけて登下校する態度の育成を、校内指導では児童理解を進め、全児童、保護者を的確に把握することに努めた。

アンケートでは、教員、保護者ともマナーに関して高く評価している。また、命の大切さや環境の保全の指導に関して、教員は低く評価しているが、保護者、児童は高く評価している。これは、こころの時間と聖書の時間を通して行われているが、多くの教員は自分の授業の中で十分に指導できていないと受け止めており、そのことから生じる意識の違いである。

改善の具体的方策であるが、マナーについては、さらに継続してより具体的に個別指導をすすめる。命の大切さや環境の保全に関しては、学級担任、専科担任がどの場面でそれらを指導するか、シラバスを精査する。

## 【 保健管理 】

保健管理においては、初等部の生活環境の特性を理解し、児童一人ひとりの健康状態を的確に把握することが、初年度の課題であった。低学年の児童にとって、長距離通学は体力面での負担が大きく、中学年では感受性と人格の発達に伴い新しい学校生活への適応に時間を要す児童もい

る。個人の健康状態については、児童の性質や生育の背景を捉えて全体像を理解する必要があった。

このような児童理解をもとに保健に関する体制整備を進めるとともに、アンケートの結果をふまえ、今後は疾病予防と相談活動について以下のような具体的活動に取り組む。疾病予防については、現在は基本的な生活習慣を身につけさせることにより健康教育の土台としている。さらに今後は、「親子スクエア」などの情報発信の場を生かし、家庭と学校との一貫した保健教育を図り、生活に根付いた健康づくりを進める。相談活動については、心配事をすぐに表出できない児童のあることを念頭に置き、教員・養護教諭・カウンセラーの連携により児童の心身の健康を見守り、児童を多角的に支援していく。児童が、与えられた命を大切に守れるよう、全人的な成長を目標としている。

### 【 教育環境整備 】

初等部で学ぶ児童に最良の教育環境を提供すべく学校施設の建設、教育設備の充実に取り組み、その結果、全国でも高く評価される校舎が完成した。また児童が学ぶことの意義や学校生活に喜びを感じられるように、様々な教育活動をする上で必要と思われる教材・教具・図書の購入・整備を行ってきた。

今回実施した学校評価のアンケートでは、児童・保護者とも学校施設や教材・教具・図書に関して極めて満足度が高かった。これに対し教員は児童や保護者に比べて、教材・教具・図書の整備という点で若干ポイントが低いという結果となった。児童にとってわかりやすく、また魅力的な授業とするためには当然授業研究が必要であり、実際に授業で使用する教材・教具・図書は教育効果の高いものでなければならない。開校初年度ということもあり、教材・教具・図書をどの程度準備すれば十分であるかという見極めが難しい面もあったが、今後、教員が思う存分、授業を展開できるよう教材・教具・図書の充実を目指していきたい。そのことが、児童の学習成果へと帰着するからである。学校にとって、教育環境の整備は生命線である。目先のことにのみ目を向けるのではなく、将来を見通した教育環境の整備をしていきたい。

### 【 キリスト教主義教育 】

関西学院は「キリスト教主義による全人教育」を教育理念とし、初等部も当然のことながらキリスト教主義教育を教育活動の柱としている。関西学院のスクールモットーである「マスタリー・

フォア・サービス」(社会と人のために自らを鍛える)の実践、そして初等部が「見えないものに心を傾け、夢を育む学校」であり続けるためにも、キリスト教主義教育の推進は必要不可欠である。

開校より1年が経過しようとしているが、この1年、こころの時間(朝の礼拝)、昼食前の昼礼、下校前の終礼、また聖書の授業などを通して、ごく自然にキリスト教の精神、価値観を児童なりに受け入れ、祈りの大切さ、他者に対する思いやりの心が養われてきている。今回の児童アンケートでもほとんどの児童が、こころの時間や聖書の時間が、自分にとって大切な時間であると感じており、また保護者を対象とした聖書講座にも毎回約250名が参加し、保護者もまた児童と同じようにキリスト教や聖書に関心を持ってくださることは嬉しいことである。

初等部のキリスト教主義教育を担うのは教職員一人ひとりであり、教職員間でキリスト教主義教育の理念を共有する機会をもち、共通理解をもって児童に接していくことが必要である。

### 【 英語国際教育 】

初等部では、英語国際教育に力を注ぎ、様々な文化的背景をもつ人々との交流や6年生でのカナダホームステイ体験の充実のために、児童が英語に親しみを持てるようなプログラムを計画、実施してきた。

児童は毎朝15分間、すべてのクラスで行われる光の時間や3年生以上を対象とした英語国際授業など、英語ネイティブ教員とのコミュニケーションを通して、英語に親しみ学びを深めてきた。児童のアンケートからも、これらのプログラムが大変有意義であったことを知ることができる。また、関西学院大学の留学生たちとの交流授業(年2回)やCanadian Academy(六甲アイランドにあるインターナショナルスクール)との交流(年2回)を通して、様々な文化的背景をもつ人々と出会い、その出会いから児童は貴重な経験を与えられている。

今後もこのような機会を提供することはもちろん、その内容を今年度以上に深め、短時間であっても心と心がふれ合う交流ができるよう工夫していきたい。また児童の英語力を伸ばすための教育プログラムの充実も課題であるが、これについては、2009年度に光の時間の延長、さらにアドバンストクラスの新設という新たな試みを実施し、よりよい英語国際教育を推進していく。